

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200938		
法人名	社会福祉法人 青山理会		
事業所名	四郷グループホーム		
所在地	三重県四日市市西日野町小溝野4014		
自己評価作成日	令和3年9月19日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470200938-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470200938-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和	3年	10月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、ご利用者の性格、気分を理解し言葉遣いや態度に気を配り、丁寧な対応を心掛けています。敷地内の畑では野菜を作り、玄関先では四季折々の花作りをし玄関には縁台を置き、好きな時間に外気浴し憩いの場となっている。食事やおやつ作りでは、季節を味わい、誕生日には、食べたいものを聞き準備、盛り付け、片づけなど共に行っている。ご利用者、ご家族に「ここに来てよかった。」と思ってもらえるよう一緒に楽しみや出来る事を探しお互いにイキイキ共に生活している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開設20年目で同敷地内に3事業所があり、常に連携し、地域の方々と共に地域の高齢者の生活をサポートしている。コロナ禍でも三地区の自治会、三地区の民生委員の協力を得て運営推進会議が書面報告形式で行われ、貴重な会議となっている。利用者の外出・面会が中止となった状況下でも施設全体が職員と共に何が出来るかを考えながら、利用者一人ひとりを尊重し、思いをくみ取り、その人らしい生活の支援が出来るように努めている。管理者・職員は屋内でできる体操・レクリエーション・手芸品作り・おやつ作りなどの回数を増やす工夫をして、利用者の楽しみごとや気分転換になるような支援に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを尊重し笑顔あふれる家」を理念に掲げ、ご利用者やご家族に「ここに来て良かった」と思ってもらえるよう一人ひとりに目を向けて細かな事でも職員は、情報を共有している。	事業所の理念「一人ひとりを尊重し、笑顔あふれる家」を玄関に掲げている。利用者のそばに寄り添って、一人ひとりに話しかけ毎日笑顔で過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症予防の為、現在は控えているが、以前は歌の会や法人の行事に参加していた。	以前は地域に溶け込み行事への参加などしていたが、この1年はコロナ禍の関係で、ほとんど地域との交流は中止にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、地域貢献できていませんが近くに中学校、高校があるので、福祉体験や職場体験、住宅もたくさんあるので認知症カフェを開催して一緒に認知症の理解を深めて欲しいと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治体からの指導もありコロナウイルス感染症予防の為、現在は当施設の取り組みや介護事故報告等を郵便で送り情報提供しご意見をお聞かせ頂いている。	行政・自治会・民生委員など多くの参加メンバーで2か月毎に開催していたが、コロナ禍の関係で紙面報告による開催となっている。利用者の状況や事業所の活動報告と共にメンバーより助言・意見など沢山頂き、回答として次回に書面報告をし貴重な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から密に連絡を取る関係性はないが、情報や案内は頂いている。また理解出来ないことがあれば電話で連絡をとり対応している。	管理者や介護支援専門員は、必要な時に届出書類などの提出に向いている。困りごとがあれば、その都度、相談・助言などを得ているが、コロナ禍の関係で電話・ファックスでの対応が多くなった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人、四郷拠点内の研修、委員会で何が拘束になるのか具体的に研修があり、日々のケアの中で身体拘束を行わない取り組みをしている。	身体拘束適正化検討委員会を3か月毎に開催している。事業所内の研修会でも密にならないように気を付け、DVDを利用して受講し、日頃のケアや拘束についての取り組みを見直す機会となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人、四郷拠点内の研修、委員会で何が虐待になるのかグレーゾーンか、不適切ケアなど自分たちでも知らず知らずのうちに虐待に繋がっているかもしれない事に注意を払い防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護を利用しているご利用者は、みえませんが対応できるようしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書や重要事項説明書の読み合わせをし疑問や不安な点などお答えさせて頂き、後日でも遠慮なくお話しいただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けているものの活用されておらず、ご家族の来訪時、電話の時などお困りごとやクレームがないかお聞きして反映するよう努めている。	コロナ禍で家族との面会方法も、中止・窓越し面会・リモートなどその時の状況で決めている。2ヶ月毎に「四郷グループホーム便り」を利用者の近況報告と共に居室担当職員のコメントを載せて家族に郵送し、意見や要望をきいている。	家族からの意見や要望は中々聞くことは難しいが、管理者・職員で利用者・家族からの意見の吸い上げ方法やコミュニケーションの取り方を考え、聞いたことは全員で共有し、それらを運営に反映させることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは少しでも話しやすい関係を築くよう努力しています。朝夕の申し送りでは、時間をとって意見や提案を聞き事業所の運営に反映させている。	管理者は日頃から現場に入って仕事をしており、職員は何時でも相談が出来る。朝夕の申し送り時や毎月の職員会議でも意見や提案を言い合っており、業務改善につなげている。最近では設立20年が経過した事業所の雨漏りについての案が出た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の導入により、職員一人ひとりが目標や課題を明確にし、お互い向上心を持って働けるような環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティング後に認知症の勉強会や2ヶ月ごとに法人主催の勉強会がありスキルアップにつなげている。法人外の研修では、職員に必要な研修が受けられるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内には4つのグループホームがあり、毎月情報交換し優れている点は、お互い取り入れながらサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に不安になっている事、分からない事など一つ一つゆっくりお話を聞き、お気持ちを共有する事から始めている。入居の際には、笑顔で接し不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、不安な事や心配、要望など安心していただけるように雰囲気をつくり、丁寧に対応するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスの提案をし、いろいろな選択肢の中からご本人に相応しいサービスを選んで頂けるよう努めている。また必要時には、業者に連絡し、助言やアドバイスももらっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の様々な場面において、それぞれ得意なところで参加して頂き助け合って生活し信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に取るようにして、状況報告をしています。ご家族と一緒にご利用者を支える関係を築けるよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の大切な方の訪問は、大変嬉しい事ですがコロナウイルス感染症予防対策がとられるようになってから、面会が出来ない代わりに電話、オンライン面会を利用して関係が途切れないよう支援している。	家族・知人との面会は月によって制限しているが、かかりつけ医師や理美容師の訪問は予備室で受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の相性を見ながら状況に応じ孤立しないよう職員が入ったりして居心地の良い関係作りが出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて連絡や相談を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者やご家族から希望や要望を聞き、意思疎通が難しい方は、職員間で話し合い本人の立場になって気持ちを汲み取るようにしている。	毎日の日課は利用者が好きな飲み物を選択し、職員が注文を聞くことである。話を伝えることが困難な利用者は、筆談やジェスチャーでしている。何事においても一人ひとりに寄り添う支援を実践し、聞いたことは全職員で共有しアセスメント・ケアプランに反映できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族から聞き取り把握している。また、担当ケアマネジャー施設職員からも情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の体調や生活の様子は毎日個人記録に記入している。職員は、出勤時には記録に目を通して把握出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の希望を第一にご家族からも意向を聞き計画作成者以外の職員の情報も得ながらご利用者本位のケアプランになるよう作成している。	介護計画に関する家族との話し合いは、コロナ禍の影響で電話が多いが、それを基に居室担当職員の意向も取り入れながらモニタリングをしている。介護支援専門員が介護の現場に携わっているので利用者個々の状態を把握でき、計画書の作成及び評価をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の気付きや変化を個人記録に記入している。小さなことでも気になった事は、その都度職員が話し合いケアを実践し適宜ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の希望や状況により随時相談を受け話し合いながら他のサービスにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、地域の行事など情報収集をして参加したり、近くの公園に行っていました。現在は、残念ながら控えています。再開したら以前のようにどんどん参加します。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に診てもらっている。受診時は、家族さんと一緒に受診頂いている。中には、往診対応の方もみえそれぞれ適切な医療が受けられるよう支援している。また同敷地内のサテライト特養とも連携しており緊急時には協力が得られる。	全員がかかりつけ医であり、家族の協力を得ながら受診している。訪問診療も含めて24時間体制で、利用者が常に適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者それぞれがかかりつけ病院は異なるが、病状の変化や分からない事があつたら連絡し適切な指示をもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、ご家族や入院先の病院関係者と連絡を取り合い関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者とご家族の意向を確認し可能であれば、住み慣れた当施設で過ごしていただく。ご利用者の進行状況など考慮し法人内の介護施設や病院を紹介している。	家族と医療の連携を取りながら、医療行為が生じた時点で再度、各関係者と話し合いの場を持ち、事業所として出来る限りの支援に取り組んでいる。また、同一法人内の施設への紹介も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え研修、ミーティングで学んでいる。マニュアル、緊急連絡網を作成し職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内で他施設と合同で避難訓練、通報訓練を行い、協力体制を築いている。非常食の見直し、停電時に対応出来るよう自家発電を備えている。	年2回(3月・10月)、火災・地震・夜間想定も含めマニュアルに沿って避難訓練をしている。コロナ禍で全員とはいかないが、防火管理者の指示で4回に分けて消火器の取り扱いなどの講習をした。真夏と真冬の停電時の利用者への対応や備蓄等の再確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「一人ひとりを尊重する。」という理念から職員は、常に顕著な気持ちでご利用者に接している。言葉かけには、ご利用者の気持ちを傷つけないよう心掛けている。	法人で接遇に関する研修をしているが、事業所でもスピーチロックの研修を予定している。日常の何気ない一言で利用者を傷つける事の無いように職員間で話し合い、ケアに努めている。又、利用者同士の関係性にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご利用者が少しでも多く自己決定が出来るよう声掛けや工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スタイルを尊重し希望や要望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者がその日の気分で着たい服を選ばれて着用されています。ご自分で出来ない方は、職員がサポートしています。訪問理容では、ご自分で希望を理容師に伝えたり口紅やマニキュアを塗って楽しんでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け後片付けまで、職員と一緒に取り組んでいます。献立は、管理栄養士が作っているが、ご利用者の状況や好みに合わせてアレンジしている。	献立・食材は業者から届き、各ユニット毎に職員が3食とも調理している。庭の畑でとれた野菜の下処理を利用者が手伝い食材に加えている。誕生日や行事食は大好評で、管理者・職員は利用者になる楽しみを味わってもらおう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎食記録している。水分は、こまめに摂ってもらっている。食事摂取量が、低下している場合は好きなものを積極的に摂取頂き、水分制限のある方は1日の水分量が分かるよう記録している。咀嚼状態やアレルギーにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアをしていただけるよう声掛けし必要に応じて介助している。訪問歯科による往診があり毎月一人ひとり口腔状態を診いただき歯磨き指導、歯ぐきのマッサージ食前体操などアドバイスもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレは4か所あり気兼ねなくゆっくり使用できる。一人ひとりのご利用者の排泄パターンを把握している。プライバシーに配慮し気持ち良く排泄出来るよう環境を整えている。また、排泄情報を職員が共有するが他の利用者に聴こえないように配慮している。	現在7名が布パンツで自立している他はリハビリパンツとパットの対応で、全員トイレでの排泄を支援している。個々の排泄パターンがあるので、その都度、早めの声掛けと使用後の確認を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給し、室内外の歩行、ラジオ体操をしている。おやつでは、ヨーグルト、乳酸菌飲料、バナナの提供をしている。必要に応じて便秘薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日バイタル測定し数値の確認をしています。不安がみられた時は、中止しご利用者の意志確認を行い拒否がみられた時は、無理せず声掛けのタイミングを工夫し気持ち良く入浴してもらっている。入浴はリラックスできるよう急かさないようにしている。	入浴は曜日に関係なく一日おきの午後を基本としている。入浴剤を入れ、一人ずつ、ゆっくりと入浴できるように支援している。浴室は広く、浴槽は埋め込み式で手すりも多く安全が図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも眠そうな時は、居室で休んで頂いています。夜間は、それぞれご自分のペースで休まれますが眠れない時は、一緒に過ごし無理に寝かすつけないような事はしません。室内の温度、湿度に気を付け気持ち良く過ごしていただけるよう気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、毎回個人ファイルに閉じて、いつでも見れるようにしている。また、処方変更時は、業務日誌、連絡帳に記入して職員の把握に努めている。服用時の体調変化にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中でそれぞれ興味のある事、出来る事を踏まえて支援している。役割としては、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ゴミ捨て、食材の検品。楽しみ事では、塗り絵、パズル、書写、クロスワードパズルです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先で外気浴、敷地内の散歩をしている。花や野菜などの成長をみて生活を楽しんでいる。現在は、敷地外への外出は、控えている。	コロナ禍で外出は出来ないが、室内での過ごし方を工夫して室内レクリエーション・手芸品作り・おやつ作りなどを増やして職員と共に楽しんでいる。又、玄関先の椅子に腰かけての外気浴や、花壇の水やり、野菜の収穫などを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は当施設では、行っていない。ご家族と相談しご本人管理でお金を所持されている方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者からの要望があれば、事務所からご家族、ご友人に電話の取次ぎを行っています。お手紙のやりとりの支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が不快にならないよう、照明、温度、湿度などの調整をしている。玄関先には、季節の花を育て飾りたい花があれば自由に切って生けてもらっている。ご利用者が手入れ、水やりを進んでしています。	多目的利用にもなるリビング兼食堂では職員と共同で四季に合った塗り絵・貼り絵などで壁飾りを作り貼っている。お菓子作りや洗濯物たたみをし、利用者の賑やかな声が聞こえている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の一人ひとりの性格やご利用者同士の関係性など把握しテーブルや座席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、電動ベット、クローゼットがあり、家具、テーブル、椅子、テレビ等の馴染みの家具、使い慣れた家電を持参いただき、居心地よく過ごせる空間作りを行っている。	事業所として、洗面台・クローゼット・ベッド・エアコンが設置されている。それぞれが思い出の家具や写真などを自宅から持ち込み、飾り付け、ゆったりと落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力ながら不安定な歩行されるご利用者が安全に自立した生活が送れるよう廊下やトイレに手すりがあります。トイレや居室は、分かりやすいように掲示したり、トイレの電気は消さずにつけたままにするなど工夫している。		